VOL.35
2015 10 ⋯12

contents

山口県の食材と観光資源をPR
　ぶちうまやまぐち総合フェア in 台湾 開催
釜山・青島派遣レポート
ビジネスサポーター
「第15回山東省・山口県経済貿易商談会」を開催!!
財団第1国際部・協会の活動について

発行　（一財）山口県国際総合センター
　　山口県日中経済交流促進協会
　　日本貿易振興機構(ジェトロ) 山口貿易情報センター

内容についてご意見、ご質問があれば、下記までお問い合わせ下さい。
（一財）山口県国際総合センター
山口県下関市豊前田町3-3-1
TEL083(231)5778　FAX083(231)5787

メッセ海外通信
INTERNATIONAL NEWS
KAIKYO MESSE SHIMONOSEKI

（一財）山口県国際総合センター・山口県日中経済交流促進協会・日本貿易振興機構(ジェトロ)山口貿易情報センター

MESSE

山口県の食材と観光資源をPR ぶちうまやまぐち総合フェア in 台湾 開催

「ぶちうまやまぐち総合フェア in 台湾」（主催：やまぐちの農林水産物需要拡大協議会、（一社）山口県観光連盟、ジェトロ山口、後援：（公財）交流協会）は、2015年９月11日、台北市内のホテル　シェラトングランデ台北にて開催されました。台湾でのイベントは昨年に続いて２回目となり、前回は農水産食品のみで実施しましたが、今回は新たに観光分野と一緒に山口県の魅力をPRしました。

写真：　レセプションでの鏡開き

本イベントは、レセプションと商談会の二部で構成され、第一部のレセプションでは、県産食材・観光のプロモーションを実施しました。冒頭では、村岡嗣政知事が、県産食材の輸出拡大と海外からの観光客誘致を図るため、来場された台湾国内の飲食業、観光業、貿易流通業など約220名の方々に、プレゼンテーション資料を使って、自らトップセールスを行いました。会場では、山口県の日本酒、みかん、のどぐろ、あんこう等を使用した料理を提供したほか、県産ハモをさばくライブキッチンを設置し、参加者にハモしゃぶにしてふるまいました。参加者からは、「ハモを初めて食べたが、美味しい」、「山口県の地酒を輸入したい」「世界遺産に登録され注目している、旅行してみたい」、などの声が聞かれました。

写真：　ハモのライブキッチン

写真：　山口県の日本酒

2014年の日本から台湾への農林水産物輸出額は約837億円であり、香港（約1342億円）、米国（約932億円）に次いで、第３位の輸出先となっています。13年の台湾への輸出額が約735億円でしたので、前年比13.8％増を記録しており、台湾における日本産食品の需要は引き続き大きいと言えます。また、観光分野においても、台

湾からの旅行者は増加しています。日本政府観光局（JNTO）によると、2014年における訪日外国人数は1,341万人、うち台湾人は全体の約21％にあたる283万人（前年比28％増）でした。今後も増加が見込まれる訪日外国人をどのようにして取り込んでいくかが課題となります。

写真：山口県の観光をPR

そして、第二部の商談会では、実際のビジネスにつなげるため、山口県からの出展事業者である農水産業関係10社（農産加工品、水産加工品、日本酒）、観光関係12社と台湾バイヤーとの個別商談会を実施しました。

農水産食品分野では、成約の確率を高めるため、事前マッチング制による商談を行いました。具体的には、ジェトロが現地で契約したコーディネーターが日本側出展者の商品情報を台湾バイヤーに紹介、バイヤーからのヒアリング内容に基づき、商談相手を事前にマッチングするものです。また、従来より課題であった商流・物流ルートの構築を目指すため、現地代理店のある出展者にはホテル、飲食店等のエンドユーザーを、代理店を持たない出展者には卸業者等を優先的にマッチングしました。一方、観光分野ではより幅広い情報収集交流の機会とするため、自由商談としました。

商談会では、観光企業の出展者が県内の観光スポットや福岡空港からのアクセス良さなどをPR、また食品企業も山口の地酒、水産物などそれぞれの商品をPRすると、バイヤーは価格や賞味期限などを熱心に質問しており、県産品への関心の高さがうかがえました。商談数は計136件。帰国後も商談を継続する案件もあり、関係機関と連携し、より多くの成約に繋げられるよう、フォローアップを行って参ります。

写真：　台湾バイヤーとの個別商談会

ジェトロでは、本商談会以外でも海外展開を検討している企業を支援しています。輸出入や海外進出に関するご相談は、ジェトロ山口事務所（連絡先:083-231-5022、Email:YAC@jetro.go.jp）にお問い合わせください。

（ジェトロ山口　内山佳世子）

釜山・青島派遣レポート

下関市総合政策部国際課
（釜山広域市派遣職員）
主査　大　江　敏　彦

～釜山の観光客の安全は「釜山観光警察隊」にお任せください！～

海外旅行の旅行先では、その土地に不慣れな観光客をターゲットとした大小様々な犯罪に巻き込まれる可能性が高くなっています。例えば、スリ、置き引き、料金のぼったくり、医療観光を装った無資格者による不正治療など、枚挙にいとまがありません。国際的な観光地としての知名度が上がり観光客が集まる観光地ほど、そのようなリスクが高まるのは、程度の差こそあれ、どこの国でも同じような傾向を示しているのではないでしょうか。

韓国では、そのような観光客にまつわるトラブルに対応するため「観光警察隊」がソウル、仁川、釜山の３都市で勤務しています。このうち、釜山地方警察庁観光警察隊の沈載勲(シムジェフン)隊長にお話を伺いましたので、紹介いたします。

観光警察隊とは、その名のとおり、国内外からの観光客に関連する様々な事件を横断的に取り扱う、守備範囲の広い警察官です。主な役割としては、被害に遭った外国人観光客の保護、簡易な通訳や観光情報の提供などの観光客の不便の解消、主に外国人観光客を狙った不正行為や犯罪の予防が挙げられます。さらに、外国人による犯罪の予防、取締りにもつなげています。何よりも、観光警察として巡回、捜査、指導することにより、犯罪や不正行為への抑止力となり、旅行客に対する安心安全への効果が大きいようです。

朴槿恵大統領の指示により設立された隊で、３つの省庁のコラボレーションによって事業が推進されています。文化体育観光部(「部」は日本の「省」に相当)が総括として予算や事業計画などを担当し、警察庁が職員などの人的提供と運営を行い、行政自治部が周辺環境の整備を担当し、活動拠点などの提供や整備などの地方自治体への協力要請を行う体制をとっています。現在、英語、日本語、中国語などの外国語が堪能な３５名の精鋭隊員が所属し、行政、巡査、捜査、情報の専門分野に分かれて業務を行っています。隊長からは「釜山での滞在に責任を持って対処いたします。もし、被害に遭ったら釜山観光警察隊へご連絡ください。誠心誠意、親身に応対しますので、安心して釜山へお越しください。」との心強いメッセージもいただきました。

釜山観光警察隊は、海雲台エリアでは午前１１時から午後１１時まで、チャガルチ市場を含む国際市場界隈では午前９時から午後８時まで、観光客が多く集まるエリアを中心に巡回を行っており、観光客の安全確保に努めています。釜山(韓国)での旅行中に困ったことがあれば、下記の番号へご連絡ください。

☆釜山観光警察隊　０５１－８９９－３０７６
☆コリアトラベルホットライン
局番なしの１３３０　(日本からかける場合は、＋８２－２－１３３０)
音声案内に従い、日本語は３番です。

下関市総合政策部国際課
（青島市派遣職員）
主事　和木田　真　功

乾杯は国境を越える～第25回青島国際ビール祭り～

メッセ通信をお読みの皆様、初めまして。私は８月末より中国山東省青島市に赴任いたしました下関市総合政策部国際課の和木田　真功（わきた　まさのり）と申します。今後約２年間に亘り、本通信にて青島市の情報をお届けいたします。以後よろしくお願い致します。

さて、初回の寄稿のテーマは、青島の夏の風物詩「青島国際ビール祭り」です。今年で25回目を迎える本祭りは、勞山区世紀広場ビール城で行われました。地元紙の報道では、国内外の観光客は１千万人を超え、その経済効果は約250億円と試算されています。開催中は１千トン近くのビールが消費され、会場は地元民のみならず、多くの外国人観光客でも賑わっていました。

さっそく入場料として20元を支払い、入場すると一面青島ビールのブースで埋め尽くされています。その奥には、ドイツ、デンマーク、アメリカ等々、ビール会社毎にブースをかまえています。このブースではステージが備え付けられており、常時マジックや、ライブなど、何かしらのショーが行われており、購入したビールやおつまみを、ショーを観覧しながら食べることができ、一人で参加した私でしたが賑やかで楽しい時間を過ごすことができました。

ところで、気になるビールの価格ですが、日本でお馴染みの中ジョッキは存在せず、１リットルサイズの大きなジョッキで販売されており、会場内で一番安い青島ビールでだいたい50元（約1,000円）、ドイツビールにもなると100元（約2,000円）という価格で提供されます。また５リットルや10リットルの樽も販売されており、複数人で参加した人などは購入し楽しんでいました。ビールの価格は普段スーパーなどで販売されている価格と比較すると５倍くらい割高に感じましたが、しかし前述のとおり、ステージのショーやイベントの充実ぶりを考えると、決して高すぎるとは思いません。また、皆楽しそうに大きなジョッキを片手にお酒を飲み交わしている姿を見ると、見ているこちらまで楽しくなってきます。

ビールには緊張緩和などの作用があると言われますが、多くの国の、様々な人種の人々がたった一つの「ビール」というツールで結びつき、ビールを通じて様々な国の味を堪能し、理解することができることから、国際交流や異文化理解の促進の作用もあるのだと学びました。やはりビールに国境はないと実感します。いつの日か、この祭りに日本のブースも加わり、青島の人をはじめ、様々な国の人々に飲んで頂ける日が来ることを強く願ってやみません。

結びに、夏の青島を表現する言葉をご紹介いたします。それは「喝啤酒，吃蛤蜊（ハーピジユー，チーガーラー）」です。日本語で「ビールを飲んで、アサリを食べる。」という意味です。青島はビールだけでなくアサリもとても有名です。とてもシンプルでかつ、青島の夏をよく表現している言葉だと思います。来年の夏は、青島ビールや世界のビールを飲んで、アサリを食べ、青島の夏を満喫してみてはいかがでしょうか？

【青島ビールを味わう多くの人々】

【入り口に設置されたモニュメント】

「第15回山東省・山口県経済貿易商談会」を開催!!

貿易商談会等実行委員会事務局
山口県商工労働部新産業振興課
主査　大　井　幹　雄
（一財）山口県国際総合センター
主査　廣　橋　幸　治

山口県内企業の海外事業展開及び山口県と東アジア地域の国際経済交流の促進を図ることを目的として、2001年以降毎年標記商談会を開催しております。

この商談会の実行委員会は、山口県をはじめ、下関市、日本貿易振興機構山口貿易情報センター、（一財）山口県国際総合センター、山口県日中経済交流促進協会、下関商工会議所、（株）山口銀行及び中国・山東省中日経済交流促進協会日本事務所により山東省に関わりの深い支援機関から構成されています。

第15回目を迎える今回の商談会は、平成27年11月18日と19日に中国青島市で開催されました。山口県側企業は、過去最高の19社が参加し、原材料や雑貨、食品、機械関係など業種は幅広く、様々な品目が商談案件として持ち込まれました。

事前申込による簡易マッチングを経た個別相対方式によるものと、当日の中国側企業の飛び込み方式により実施したところ、結果として、中国側企業は、山口県側企業の３倍以上の64社が来場し、商談件数は１日半で147件（内訳として、輸出案件が78件、輸入案件が65件、その他４件）にのぼり、大盛況のうちに終わりました。

帰国後のフォローでは、山口県側企業から「中国において、自社で商談相手を見つけることは難しいため、よい機会だった」、「中国企業が日本商品に大きな興味を持っていることが分かった」、「期待以上の成果を得た」等の感想を、更には成約見込みのご報告も聞くことができ、主催者としては嬉しい限りでした。一方で、様々な視点からの貴重なご意見もいただき、この商談会をより良いものとするよう改善に向けた努力を続けていかなければならない、との思いも新たにしました。

参加企業の皆さまには、この場をお借りして厚くお礼申し上げますとともに、商談会を契機とした中国ビジネスの益々の発展を祈念いたします。

近年、中国からのインバウンドによる「爆買い」が注目され、高品質・高付加価値のある日本製品は人気があります。また、中国の富裕層・中間層の購買力の高さは魅力的であり、中国市場への高い関心は今後も続くことが見込まれます。少子高齢化の進展により将来的な国内市場の縮小が見込まれ

ており、このような経済状況を踏まえ、中国市場に活路を求める動きが強まっているのではないでしょうか。

○海外展開を目指す県内企業の皆さまへ

この商談会の参加費用は無料（※渡航、滞在及びサンプル運搬経費等は参加者負担）となっており、商談相手の募集、商談会場の設置及び通訳の手配など実行委員会が支援いたします。また、商談会後も、必要に応じて（一財）山口県国際総合センター、山口県日中経済交流促進協会及び日本貿易振興機構山口貿易情報センター（ジェトロ山口）の関係機関によるアフターフォローが受けられるなど、企業独自で海外事業展開を進めるよりも事務的負担・経済的負担の面で多くのメリットがあります。

来年度もこの商談会を開催する予定ですので、是非ともこの機会をご活用ください。

【商談会の様子】

○参考：山口県ホームページ　新産業振興課新事業支援班

「山東省・山口県経済貿易商談会について」

http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16900/sinjigyo/intro-shoudankai.html

財団第１国際部・協会の活動について

（一財）山口県国際総合センター第１国際部は、国際経済交流の推進と地域産業の振興を図るため、関係機関・団体と連携して、県内企業の貿易取引・海外進出支援や人材育成等の事業を進めています。

山口県日中経済交流促進協会は、昭和56年（1981年）に地域レベルでの日中間の経済、貿易の交流を促進するため、山口県・県内市町及び主要経済団体より設立されました。以来、国内外の機関や団体と連携して、企業進出支援や現地での活動支援、経済や貿易・投資及び技術に関する相談や情報の提供等を行っています。

主な事業内容

・貿易相談・海外ビジネス支援

海外ビジネスサポーターや海外関係機関と連携し、貿易や海外進出を希望している企業に対して、海外企業との取引斡旋や紹介、企業進出を支援しています。

・海外ビジネスサポーターの配置

中国青島市及び香港に「海外ビジネスサポーター」を配置し、県内企業の現地での工場や事務所などの進出支援、ビジネスマッチングの支援、最新の市場動向などの提供、アポイントの調整等を中国国内で行っています。

・貿易等に携わる人材の育成と確保支援

講演会、セミナー等を開催し、貿易等に携わる人材の育成に努めています。

・経済交流団の派遣と受入

関係機関・経済団体等と協力して海外に経済視察団を派遣しています。また、海外からの訪日団を受入れ、商談の仲介や企業視察を行っています。

・その他

中国における円滑な企業活動を支援するため、山東省（青島市）に進出している山口県企業相互の意見交換会や、企業の活動状況や抱えている諸問題などについて中国政府関係機関との意見交換の場を提供するなど様々な事業を行っています。

海外ビジネスサポーターのご利用について

こんなときには、お気軽にご相談ください。

・中国の経済情報を入手したい
・中国企業と取引したい
・中国企業とコンタクトを取りたい
・中国企業と商談がしたい
・現地でのアポイントを取りたい
・中国市場における商品の売れ行きを知りたい
・中国への進出や取引についてのアドバイスがほしい
・人材の紹介　　…etc

問い合わせ
下関市豊前田町三丁目３番１号　海峡メッセ下関
（一財）山口県国際総合センター第１国際部
TEL 083-231-5778　FAX 083-231-5787
山口県日中経済交流促進協会
TEL 083-231-5788　FAX 083-231-5796